

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271401053		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」にしありえ		
所在地	〒859-2214長崎県南島原市西有家龍石1417-1番地 (電話) 0957-65-2121		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月15日	評価確定日	平成21年2月6日

## 【情報提供票より】(平成20年12月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	11月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤	5人, 常勤換算	5.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	島原病院・菜の花クリニック・上田歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「城下」にしありえの母体である法人は、早くより介護事業に取り組みられており、豊富な知識と経験を持ち合わせている。場所は山間部にあり、鳥の声や自然豊かな雰囲気の中で、山菜取りや畑仕事など、入居者はのびのびと暮らされている。当ホームは外出することで、入居者が閉じこもることなく地域の方々とうれい合うことを願われている。地域との触れ合いは音楽祭の参加や御輿を担いだり、地域清掃にも取り組まれ、地域の方から畑でできた作物をいただくなどの交流がなされている。当ホームの中には畳の部屋などもあり、雰囲気がよい。働く職員も様々な年齢層があり、子になり孫になることで親子のような関係を築き、入居者の本音をふれ合いながら尋ねられている。入居者も一人ひとり元気に楽しく過ごされているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価に対しては改善計画シートを更なる向上に利用されている。主な取り組み内容として「その人らしい暮らしを続けるための日々の支援」では冬場の入浴回数の少なさを検討され、脱衣所に暖房器具を設置することで改善されている。また看取りの事も考えられており、家族や医師との話し合いをもつことで、事業所内でのターミナルケアを検討されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を昨年の12月から全職員に配布し、自己評価を通して職員の意識を確認されている。意見を収集し代表が集め、取りまとめた自己評価を職員にフィードバックされ、当ホームの向上に努められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度、運営推進会議を家族代表・行政担当者・町内会長など、地域の住民を交えて行われている。会議録は、どのような意見交換が行われたかが分かり易く、今後につながる記録がなされている。運営推進会議では主に事業報告が行われている。その際地域の行事に参加したことで交流できたことを地域の方々と喜ばれている
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	便りを毎月出され、個々の入居者の暮らしの様子、健康状態などを手書きで知らせている。また2ヶ月に1度は「城下にしありえ通信」を発行され、入居者の楽しんでいる様子や職員の紹介などを知らせている。また入居者の家族や親戚の方が来られた際には集合写真を撮り、送られることで喜ばれている。家族の意見を引き出す工夫としては意見箱の設置や面会時の声かけ、また無記名アンケートを窓口に置かれるなどの工夫がされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の自治会に加入し、地域活動として草むしりや御輿担ぎなど、地域の人々との交流に努められている。また小学生・中学生・高校生の福祉体験学習の場としても提供され、年に1度は地域の方との合同火災訓練も行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても障害を持っても、当たり前に分らしく普通に暮らしたい」という基本理念があり、地域の町内行事に参加するなど、ホームから積極的に向かい出すことで普段の生活が送れるように考えられ、理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けて「五つの心得」という介護目標を考えられている。その心得を玄関や廊下、浴室やトイレなどの様々な所に掲げることで意識付けされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域活動として草むしりや御輿担ぎなど、地域の人々との交流に努められている。また小学生・中学生・高校生の福祉体験学習の場としても提供され、年に1度は地域の方との合同火災訓練も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を昨年の12月から全職員に配布し、自己評価を通して職員の意識を確認されている。意見を収集し代表が集め、取りまとめた自己評価を職員にフィードバックされ、ホームのサービスの向上に努められている。外部評価に対しては改善計画シートを更なる向上に利用されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を家族代表・行政担当者・町内会長など、地域の住民を交えて行われている。会議録はどのような意見交換が行われたかが分かり易く、今後につながる記録がなされている。		

グループホーム「城下」にしありえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者などに介護情報の情報をもらうために足を運ばれるなど、行政とともにサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを毎月出され、個々の入居者の暮らしの様子、健康状態などを手書きで知らせている。また2ヶ月に1度は「城下にしありえ通信」を発行され、入居者の楽しんでいる様子や職員の紹介などを知らせている。また入居者の家族や親戚の方が来られた際には集合写真を撮り、送られることで喜ばれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を引き出す工夫としては意見箱の設置や面会時の声かけ、また無記名アンケートを窓口に置かれるなどの工夫がされているが、利用される方が少ない。		家族からの意見に対して、ホームとしてどのように検討し対策がなされたかという、意見に対する対応のプロセスを明示した回答を全家族へ漏れなく報告する事でさらなる意見を引き出す取り組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は入居者への馴染みの関係を考え、基本的に行っていない。また離職を抑える取り組みとして職員の勤務態勢を代表に相談しやすい環境が整えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては接遇の基礎や言葉遣いの習得などのプログラムが組まれている。内部研修は法人全体で身体拘束、接遇の研修などを学ばれている。外部研修は写真付きの報告書で職員会議の時に発表されている。外部に参加する際は職員が出席しやすいように勤務態勢を整えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームの代表は南島原市グループホーム連絡協議会(12事業所)の会長を担当され、研修会を3ヶ月に1度開くなど、交流がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当ホームに昼間遊びがてら見学に来ていただくなど、本人の意思を考慮し、無理なくホームへ来ていただくように工夫されている。また本人の状態を知るために自宅へ訪問されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から昔の歌を習ったり、料理の作り方を習うなど入居者と距離を作らず、できるだけコミュニケーションを図りながら良好な関係を築かれている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意向を知るべく、入居者の日々の暮らしぶりを日誌に書かれている。そして一人ひとりに聞き取りをすることや表情を読みとりながら本人の希望を見出されている。また困難な方には家族と相談されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は入居者のこれまで生活されてきたことの延長を目指され、本人と家族の意見を伺いながら作成されている。また入居者一人ひとりに担当職員があり、生活の中から見出した気づきが介護計画書に反映されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画を3ヶ月間で見直しをされている。その際に毎月のアセスメントをとり、モニタリングをされている。また介護計画が反映できる記録の付け方をされているが、見直しの際に前回の介護計画がそのまま継続されることが多い。</p>		<p>今後は入居者や家族の希望を聞き出し、より効果的な介護計画の見直しが望まれる。</p>

グループホーム「城下」にしありえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ドライブや通院介助などで積極的に外に出ていき、地域の方とふれ合うよう支援されている。また、入居者の家族の面会時には駅まで出向いたり、専門学生、ヘルパー実習生等の受け入れ等、柔軟な対応をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりのかかりつけ医の関係を大切にされ、入居者の個々のバイタルや受診記録を用いながら取り組まれている。また協力医や看護師が毎週木曜日に往診されている。また毎月の検査も行われており、適切な医療を受けられるように支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針や同意書は用意され、終末期の夜間帯には職員を増やし対応されている。また入居者や家族の意志を確認されている。入院よりも当ホームを望まれた時には医師との相談も綿密に行いながら訪問看護で対応される。看取る際には全職員に連絡を取り、全員で見送られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などは事務所に保管されている。排泄チェック表を利用することで、個々の排泄のタイミングを把握し、さり気なく誘導されている。声かけは十分に配慮し、尋ねるように心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きつけの美容室を継続して利用されたり、日中は自由に散歩に出られるなど、一人ひとりが本当に望んでいる暮らしの支援を心がけられている。		

グループホーム「城下」にしありえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も共にとっており会話しながらの楽しい食事風景であった。また団子作りなどの調理や食器洗いを入居者ができる範囲で手伝われるなど、食事を楽しむ支援がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が希望されれば毎日の入浴が可能である。入浴されない時は清拭やシャワー浴をおこない清潔保持の支援がなされている。また脱衣所には暖房器具を用意され、寒い冬場にもストレス無く入浴していただけるように工夫されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の中に食事の号令を出す担当がおられ、生き生きとされておられた。また畑でできた大根をたくあんにされたり、食器の後かたづけの担当があったりと、その人その人にあった支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を好まれる入居者が多く、ドライブや散歩が頻繁に行われている。またほぼ毎日のように買い物へ出かけられたり、外出が困難な方には広いデッキで外気に触れていただくなどの支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵を掛けることがないため、入居者は自由に入居りできる。また地域の代表者に個人情報に配慮しながら、入居者の説明をすることで、地域での見守りをお願いされるなど、安全に生活できるよう支援がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を年に4回、その内に消防署と消防団との合同で訓練されている。また職員が消防学校へ泊まりがけで行き、地震体験訓練を行ってくるなど、災害に対する意識が高い。避難の際は連絡網を用意されている。		

グループホーム「城下」にしありえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量を記録されている。入居者の状態に応じてキザミ食や糖尿食などの医師の指示に従いながら支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内に立派な松の木などが植えてあったり、室内には体験学習された学生の手紙があるなど、入居者が楽しく過ごせるよう工夫されている。また水槽には金魚がいたり、季節の花を飾られている事で、居心地の良い空間が提供されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や神棚、ピアノや籐のイスなど、個々の持ち物を持ってきてもらい、その人らしい居心地の良い居室となっている。		